

未来を担う教師のための 実践開発の場!

第8回 開発実践報告会

- 日時：平成29年1月29日（日）8:30～16:30
- 会場：岐阜大学教育学部 講義棟1階 B107教室
- 住所：〒501-1193 岐阜市柳戸1-1

- 「開発実践報告会」は2年間の学修成果を評価し、学校や地域、教育委員会、または、広く一般の方に公開する場です。どなたでもどの時間からでも参加できます。申し込み・参加費は不要です。ぜひ、会場にお越しください。

【日程】

時間	行事・発表者
8:30～	開会行事
8:45～	報告Ⅰ：ストレートマスター（学部卒学生）
11:00～	報告Ⅱ：中学校派遣教員
13:10～	報告Ⅲ：小学校派遣教員
15:05～	報告Ⅳ：高等学校，特別支援学校派遣教員
16:25～	閉会行事

※教職大学院に関する質問や相談がある方に対して、担当職員が説明します。受付にお申し出ください。

※ストレートマスターは6名は…

新人教員として役に立つ提案をします!

※現職派遣教員院生13名は…

地域や学校の課題を解決する提案をします!

●問い合わせ 岐阜大学教職大学院代表 平澤紀子 (hirasawa@gifu-u.ac.jp)



国立大学法人

岐阜大学

主催：岐阜大学大学院 教育学研究科 教職実践開発専攻（教職大学院）
共催：岐阜県教育委員会

◆ 開会行事(8:30~8:45)

◆ 報告Ⅰ:ストレートマスター(8:45~10:45)

No.	氏名	種別	実習校	コース	題目	時間
1	奥田 紗帆	SM	実習:岐阜大学附属小学校	授業開発	小学校・外国語活動における対話の流れとCommunication Strategyを重視した授業開発 —ワークシートの作成を通して—	8:45 ~ 9:05
2	小池 彩加	SM	実習:岐阜市立長良小学校	授業開発	自己の高まりを自覚し、自分への自信を深める算数指導の在り方 —授業終末の表現活動・評価活動を通して—	9:05 ~ 9:25
3	中島 祥吾	SM	実習:岐阜大学附属小学校	授業開発	英語の授業におけるTPR(Total Physical Response)とチャンクの活用	9:25 ~ 9:45
4	加藤 里佳	SM	実習:岐阜市立東長良中学校	授業開発	教科書教材の「読み」の言語活動における質問と発問の工夫 ~自分の気持ちや考えを表現するためのパフォーマンスを目指して~	9:45 ~ 10:05
5	加納 一輝	SM	実習:岐阜市立長良中学校	教育臨床実践	「特別の教科 道徳」における指導方法と評価方法に関する開発実践 —問題解決的な学習を中心に—	10:05 ~ 10:25
6	安田 善紀	SM	実習:岐阜県立大垣南高等学校	授業開発	歴史についての「見方・考え方」を養い、自らにつなげる授業実践 —高校授業の日常に位置づくアクティブ・ラーニングへの挑戦—	10:25 ~ 10:45

◆ 報告Ⅱ:中学校派遣教員(11:00~12:20)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
7	龜山 雅之	派遣	関市立津保川中学校	授業開発	新学校づくりにおけるミドルリーダーの役割	11:00 ~ 11:20
8	鈴木 大介	派遣	岐阜市立東長良中学校	授業開発	社会に開かれた教育課程の実現に向けた郷土教育の開発 —中学校におけるカリキュラムマネジメントの推進—	11:20 ~ 11:40
9	矢澤 淳	派遣	中津川市立付知中学校	授業開発	過疎化の進展する地域における小規模中学校授業研究のアクティブ化に関する開発実践- 小規模校の特性を活かした教師コミュニティ形成による授業力向上-	11:40 ~ 12:00
10	山田 恭子	派遣	岐阜市立長良中学校	教育臨床実践	教師・保護者・友人のはたらきかけへの介入が本来感と自尊感情に及ぼす影響 —心理的well-beingの向上を目指した検討—	12:00 ~ 12:20

◆ 昼食(12:20~13:10)

◆ 報告Ⅲ:小学校派遣教員(13:10~14:50)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
11	大澤 久乃	派遣	可児市立帷子小学校	教育臨床実践	学校適応の促進をめざしたソーシャルスキルトレーニングの実践 —情動過程を伴った社会的情報処理モデルに基づく全校規模のアプローチ—	13:10 ~ 13:30
12	宮川 和文	派遣	岐阜市立長良小学校	学校改善	小中一貫教育におけるカリキュラム開発の実践と運営—郷土教育を方法として—	13:30 ~ 13:50
13	日比野 能之	派遣	高山市立三枝小学校	授業開発	小規模小学校の強みを活かした教師の授業力向上に資する授業づくりと校内研修の開発実践	13:50 ~ 14:10
14	宮下 直樹	派遣	榑斐川町立清水小学校	授業開発	子ども・教師・保護者が主体的に取り組む授業開発と校内研究の改善	14:10 ~ 14:30
15	佐久間 陽子	派遣	羽島郡岐南町立西小学校	特別支援教育	就学前から一貫した小学校における特別支援教育体制構築に関する研究	14:30 ~ 14:50

◆ 報告Ⅳ:高等学校・特別支援学校派遣教員(15:05~16:25)

No.	氏名	種別	所属校	コース	題目	時間
16	小野 卓也	派遣	岐阜県立岐阜農林高等学校	学校改善	学校を『協働的』に機能させるミドルリーダーのあり方 —専門高校における学科コラボ型授業の取り組みを通して—	15:05 ~ 15:25
17	串戸 正一	派遣	岐阜県立大垣東高等学校	学校改善	高等学校における校内研修の活性化 —メンター制度の導入を方法として—	15:25 ~ 15:45
18	菅井 修	派遣	岐阜県立加納高等学校	学校改善	高等学校普通科におけるキャリア教育のプログラム開発 —「総合的な学習の時間」を通じたキャリア教育の実践—	15:45 ~ 16:05
19	松本 深香	派遣	岐阜県立岐阜本巣特別支援学校	特別支援教育	特別支援学校による教育支援への積極的参画に関する検討	16:05 ~ 16:25

◆ 閉会行事(16:25~16:45)

発表内容紹介パンフレット

○発表順：No. 1

○発表時間：8時45分～

○氏名：奥田 紗帆

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

小学校・外国語活動における対話の流れと
Communication Strategy を重視した授業開発
ワークシートの作成を通してー

【趣旨】

小学校の外国語活動は、教科化に向けて動いている。その方向は、音声中心から文字への円滑な接続、英語の発音と綴りの関連、文構造の学習である。また、実社会に生き、中学校へつなぐ英語の習得も肝要となる。本実践研究では、これらを踏まえ、場面と話題を重視し、発音と綴りのリンク、対話の対処方法、1往復以上の対話、文構造に着目した対話活動を仕組むために、第5・6学年を対象としたワークシートを作成した。そして、授業を実践し、その成果と課題を報告する。

○発表順：No. 2

○発表時間：9時05分～

○氏名：小池 彩加

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

自己の高まりを自覚し、自分への自信を深める
算数指導の在り方
—授業終末の表現活動・評価活動を通して—

【趣旨】

日本の子どもたちは、学力テスト（PISA調査等）では高得点であるにも関わらず、学習への興味・関心や学習を通して獲得する自分への自信は、世界各国と比べて低い水準にある。それは、授業の中で子ども自身が自己の高まりを自覚することが十分にできていないからだと考え。本開発実践では、算数科の授業において、授業終末に表現活動・評価活動を位置付けることで、自己の高まりを自覚し、子どもが自分への自信を深めることのできる授業づくりを行う。

○発表順：No. 3

○発表時間：9時25分～

○氏名：中島 祥吾

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

英語の授業におけるTPR(Total Physical Response)と
チャンク(Chunk)の活用

【趣旨】

次期小学校学習指導要領において、高学年を対象として外国語活動が教科になることをふまえ、日常の場面に即して英語を活用していくことができる言語活動を行うことが必要になる。そのためには、先ず、実生活で応用可能な語彙の習得及びそれを活用した授業が重要になる。そこで、身体を動かしながら、語彙習得をするTPR(全身反応教授法)の理論とチャンク(語と語の組み合わせ)の考えを活用して語彙を指導する授業研究をする。実践の出口としては、習得した語彙を活用して文を生成しながら、コミュニケーションを図ることを目標とする。

○発表順：No. 4

○発表時間：9時45分～

○氏名：加藤 里佳

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

教科書教材の「読み」の言語活動における質問と発問の工夫
—自分の気持ちや考えを表現するためのパフォーマンスを目指して—

【趣旨】

従来、「読むこと」は受け身的活動としてとらえられてきた。しかし、読みの理論や学習指導要領を検討すると、書かれたことを理解することだけではなく、それを踏まえて、自分の気持ちや考えを表現する段階までが「読むこと」の活動として位置づけられる。すなわち、読むことは受動的な面と、積極的・能動的な面の両面が存在するのである。本研究は、受動的な部分が多い質問と・産出的・能動的な面が多い発問に着目し、検討を加え、それらを英語の授業で実践し、単元の出口のパフォーマンスに結ぶ実践開発である。

○発表順：No. 5

○発表時間：10時05分～

○氏名：加納 一輝

○所属：ストレートマスター

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：

「特別の教科 道徳」における
指導方法と評価方法に関する開発実践
—問題解決的な学習を中心に—

【趣旨】

平成27年に、道徳の教科化に向けて学習指導要領の一部改正が行われた。考え議論する道徳への質的転換を図るものであり、問題解決的な学習の導入が示された。指導と評価を一体化して捉え、道徳の目標に準拠し、生徒たちが主体的・対話的で深い学びを行うことができる指導方法や、その学習指導過程の評価方法についての開発が求められている。そこで本開発実践では、問題解決的な学習を導入した、考え議論する道徳の授業の指導方法と評価方法の在り方について検討を行う。

○発表順：No. 6

○発表時間：10時25分～

○氏名：安田善紀

○所属：ストレートマスター

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

歴史についての見方・考え方を養い、
自らにつなげる授業実践
－高校授業の日常に位置づく
アクティブ・ラーニングへの挑戦－

【趣旨】

高校地歴科教育では、歴史的思考力の育成が課題とされてきた。歴史的思考力の育成には、歴史についての「見方・考え方」を養い、比較・関連・推測などの学習活動を通して、深い学びにつなげることが重要である。

これらの学習に効果的であるとされる学び方がアクティブ・ラーニング(AL)である。本開発実践では、日常の授業において、どのようにすれば深い学びにつながるAL授業に転換できるのかを実践・考察した。

○発表順：No. 7

○発表時間：11時00分～

○氏名：亀山 雅之

○所属：関市立津保川学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

新学校づくりにおけるミドルリーダーの役割

【趣旨】

平成28年度、岐阜県では学校統廃合によって中学校4校が新たにスタートした。関市立津保川中学校もその中の1校である。本開発実践ではカリキュラムマネジメントの考え方を基にしながら「地域に根差した学校」「子供が主役の学校」づくりを進めた。その際、ミドルリーダーが生徒、管理職、職員と議論を重ねながら、どう学校づくりに関与したのかを明らかにし、その効果を生徒の姿と職員へのアンケート調査やインタビュー調査の結果から明らかにする。本開発実践の歩みを、新学校づくりのモデルの1つとして提案していく。

○発表順：No. 8

○発表時間：11時20分～

○氏名：鈴木 大介

○所属：岐阜市立東長良中学校

○コース：授業開発コース

○題目（テーマ）：

「社会に開かれた教育課程」の実現に向けた郷土教育の開発
－中学校におけるカリキュラムマネジメントの推進－

【趣旨】

子供たちに、新しい時代を切りひらいていくために必要な資質・能力を育むためには、学校が社会や世界と接点を持ちつつ、多様な人々とつながりを保ちながら学ぶことのできる「社会に開かれた教育課程」のカリキュラム開発と、その実現のための学びの場が不可欠である。その重要な接点の一つが地域であると考えている。そこで「郷土教育（ふるさと学習）」の視角から、総合的な学習の時間や教科学習の教材等を開発し、カリキュラムマネジメントの理論を活用して、学校全体で取り組んだ実践を報告する。

○発表順：No. 9

○発表時間：11時40分～

○氏名：矢澤 淳

○所属：中津川市立付知中学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

過疎化の進展する地域における小規模中学校授業研究の
アクティブ化に関する開発実践
－小規模校の特性を活かした教師コミュニティ形成による授業力向上－

【趣旨】

本開発実践の目的は、過疎化進展地域の小規模中学校の直面する状況（同一教科担当を前提とする教科部会の不成立等）の下にある教師の授業力形成を日常的に推進する授業研究活性化モデルの構築にある。このモデル構築に向けて、担当教科の異なる教師の協働的学びを深める組織運営や視点設定、外部の人的リソース（大学や教委や近隣学校）との協働の2つを基軸に、2年間にわたる開発実践を構想・展開した。それをもとに小規模中学校教師の授業力向上を支える授業研究モデルを提起する。

○発表順：No.10

○発表時間：12時00分～

○氏名：山田 恭子

○所属：岐阜市立長良中学校

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：

教師・保護者・友人のはたらきかけへの介入が
本来感と自尊感情に及ぼす影響
—心理的 well-being の向上を目指した検討—

【趣旨】

中学生を対象とした調査を実施し、教師・保護者・友人のはたらきかけが、子どもたちの自尊感情や本来感の自己概念に及ぼす影響、さらに心理的 well-being (Wb) の適応状態に及ぼす影響について検討した。各はたらきかけの受容・配慮、肯定的フィードバックの有効性が確認されたため、それらに焦点づけた心理教育的介入研究を行った。各はたらきかけは自己概念に促進的な影響を与え、Wb に対しては直接的、自己概念を介して間接的に促進的な影響を与えることが明らかになった。

○発表順：No.11

○発表時間：13時10分～

○氏名：大澤 久乃

○所属：可児市立帷子小学校

○コース：教育臨床実践

○題目（テーマ）：

学校適応の促進をめざした
ソーシャルスキルトレーニングの実践
—情動を伴った社会的情報処理モデルに基づく全校規模のアプローチ—

【趣旨】

学校現場では、学校不適応と呼ばれる現象が問題となっている。社会的問題解決に対し適切に情報を収集・処理し、仲間に配慮したり自分の考えを適切に表現したりする能力をもち、場の状況に応じた行動が取れる者は、豊かな人間関係を醸成することができ、学校適応が促進すると考えられる。発達段階を考慮した社会的認知と感情のコントロールに焦点を当て、小学校全校児童を対象にした SST を開発し、実践した。実践の結果、全学年で攻撃性の低下が見られ、実践の有効性が確認された。

○発表順：No.12

○発表時間：13時30分～

○氏名：宮川 和文

○所属：岐阜市立長良小学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：

小中一貫教育におけるカリキュラム開発の実践と運営
ー郷土教育を方法としてー

【趣旨】

教育基本法、学校教育法の改正による義務教育の目的・目標の統合、学習内容の量的・質的充実への対応、中1ギャップへの対応等、小中一貫教育は、様々な背景で導入されている。しかし、全国にみる小中一貫教育の導入・推進は、低調である。さらに、取組においては、中核的事項の「目指す子供像の具体設定」「義務教育を見通したカリキュラムの作成」が不十分にもかかわらず、小中一貫教育と謳っている学校が大部分であることが明らかになった。

この課題解消には、中核的事項とともに、小・中学校間のコーディネート機能を充実させるマネジメントの在り方を確立していく必要がある。

そこで、本開発実践では、郷土教育を方法とした総合的学習の小中一貫カリキュラム開発の実践を行い、マネジメントの在り方を検討する。

○発表順：No.13

○発表時間：13時50分～

○氏名：日比野 能之

○所属：高山市立三枝小学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

小規模小学校の強みを活かした教師の授業力向上に
資する授業づくりと校内研修の開発実践

【趣旨】

小規模小学校では、教師一人当たりの校務分掌が多く、多忙な勤務状況が続いている。しかし、本校では、個々の教師の力と協力的な姿勢とが学校を動かすエネルギーとなっており、これこそが「小規模小学校の強み」であると捉えている。

本開発実践は、小規模小学校の実態や勤務校のニーズ、個々の教師の願いに応じながら、授業づくりと校内研修の開発に取り組む。校内研究を核として日常の授業づくりと校内研修を結び付けることによって、小規模校の課題を乗り越え、教師の授業力向上を図ることを目指す。

○発表順：No.14

○発表時間：14時10分～

○氏名：宮下 直樹

○所属：揖斐川町立清水小学校

○コース：授業開発

○題目（テーマ）：

子ども・教師・保護者が
主体的に取り組む授業開発と校内研究の改善

【趣旨】

子どもの主体性を伸ばすため、従来の校内研究の発想を逆向きに捉え、子ども、教師、保護者のつながりを強固にする校内研究へと転換する開発実践である。

教師がデザインした枠にあてはめる授業を「子ども自身の見通しと、学びの振り返りを大切にした授業づくり」へ転換。トップダウンになりがちな校内研究を「教師が主体となるボトムアップ型校内研究」へ転換。保護者に対して閉ざされている校内研究を「保護者との双方向の連携を位置付けた開かれた校内研究」へと転換する。

○発表順：No.15

○発表時間：14時30分～

○氏名：佐久間 陽子

○所属：岐南町立西小学校

○コース：特別支援教育

○題目（テーマ）：

就学前から一貫した小学校における
特別支援教育体制構築に関する研究

【趣旨】

小学校では、早期から始まっている支援を着実に引き継ぎ、よりよい支援を行っていくことが求められている。本開発実践では、就学前から一貫した小学校における特別支援教育体制構築を目的とし、以下の2点について検討し、明らかにする。

- ① 現在行われている就学前の支援情報の入手や活用の状況分析
- ② 特別支援教育コーディネーターが中心となり、小学校が必要とする就学前の支援情報を着実に入手し、有効に活用するための方法と体制

○発表順：No.16

○発表時間：15時05分～

○氏名：小野 卓也

○所属：岐阜県立岐阜農林高等学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：

学校を『協働的』に機能させるミドルリーダーの在り方
—専門高校における学科コラボ型授業の取組を通して—

【趣旨】

学校長の教育方針のもと、PISA的学力あるいは「生きる力」としての「新しい学力」を、生徒に主体的に身につけさせるため、生徒自ら課題を発見し、解決する力等の資質・能力を高める科目「SS課題研究」を、学科コラボ型授業に変革した。そのための組織を開発し、その取組をミドルリーダーとしてファシリテートした。

本校の学校改善は主に弱点に焦点を当て、それを解決することに終始していた。その改革を狙いとして全教職員が「わが校の強み」を共有すること、また教職員が協働で理想の実現に向う潜在力を引き出し、組織力を継続して高められる意識改革の第一歩をマネジメントした。

○発表順：No. 17

○発表時間：15時25分～

○氏名：串戸 正一

○所属：岐阜県立大垣東高等学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：

高等学校における校内研修の活性化
—メンター制度の導入を方法として—

【趣旨】

中教審答申（H27・12）において、教員研修に関する改革の具体的な方向性が示された。「教員は学校で育つ」ものであり、教員の資質能力の向上を校内研修で実現を図っていく方向性である。本開発実践では、教科の専門性から一人一人が個業化し、研修という行為性や組織化に大きな課題がある高等学校において、悩みや課題を大きく抱えていると考えられる若手教員の力量向上に焦点化し、校内研修の活性化策を明らかにしようとするものである。有効な方法として「メンター制度」を学校現場に適した形で導入を図り、その可能性と課題を考察する。

○発表順：No. 18

○発表時間：15時45分～

○氏名：菅井 修

○所属：岐阜県立加納高等学校

○コース：学校改善

○題目（テーマ）：

高等学校普通科におけるキャリア教育のプログラム開発
－「総合的な学習の時間」を通じたキャリア教育の実践－

【趣旨】

高等学校においては、「体系的・系統的なキャリア教育」の計画及び実践により、生徒の学習意欲が向上することが期待されている。

本開発実践では、「総合的な学習の時間」を通じたキャリア教育の実践により、高等学校普通科のキャリア教育の学習プログラムの開発を行う。キャリア教育で育む「社会を生きる力」からキャリア発達を捉えるポートフォリオの開発と、組織的な進路指導を行う「キャリア顧問」制度を提案するものである。

○発表順：No.19

○発表時間：16時05分～

○氏名：松本 深香

○所属：岐阜県立岐阜本巣特別支援学校

○コース：特別支援教育

○題目（テーマ）：

特別支援学校による教育支援への
積極的参画に関する検討

【趣旨】

インクルーシブ教育システム構築の中心的な課題として、支援内容の継続性を重視した就学先の決定がある。そこで本開発実践では、まず、特別支援学校に就学する幼児を対象として、入学以降の教育活動を想定した教育支援情報の観点を明らかにした。そしてそれらを踏まえ、特別支援学校が、早期から支援の継続に積極的に参画するための方策を明らかにした。特別支援学校が主体となって、幼稚園等を訪問して必要な教育支援情報を入手し、支援をつなぎ、子どもたちがスムーズに新しい学校生活に移行できるための教育支援モデルを開発し、その実践を報告する。